命の経験の第四段階へと入り、
完全に成長した人に到達して神の定められた御旨を完成する

（木曜日――午前の第一の部）

メッセージ　1

第四段階の命の経験を通して、
完全に成長した団体の人は神の定められた御旨を完成する

聖書：創 1:26-28．エゼキエル 1:5, 26．エペソ 2:15．4:13, 24

Ⅰ．聖書には、神と人との関係に関して奥義的な思想があります――創 1:26．エゼキエル 1:5, 26．Ⅰヨハネ 3:2 後半．啓 4:3 前半．21:11 後半：

Ａ．人は神の現れの手段であり、人は神の行動の手段であり、人は神の行政の手段です――使徒 2:32-33, 36．ピリピ 2:5-11．ヘブル 2:9．啓 5:6。

Ｂ．エゼキエル第 1 章で、四つの生き物が人の外観を帯びており、また御座の上の神が人の外観を帯びているという事実が示すのは、神の中心思想と彼の案配が人と関係があるということです―― 5, 26 節．創 1:26：

１．四つの生き物が人の外観を帯びていることに関して、エゼキエル第 1 章に三つの重要な事柄があります：

ａ．神の栄光が彼らの上に現されています。彼らが人の外観を帯びていないなら、神の栄光は現されることができません―― 28 節。

ｂ．生き物は神の行動の手段です。神の行動は彼らにかかっています―― 12-21 節。

ｃ．生き物は神の行政の手段です―― 26 節：

（1）神の御座は彼の行政の中心です――啓 4:2, 6。

（2）生き物は人の外観を帯びていて、神の御座の行政があります――エレミヤ 17:12。

２．召会が表現しなければならないキリストは、御座の上のその人です――啓 3:21。

Ｃ．エゼキエル第 1 章 26 節と創世記第 1 章 26 節との間には関連があります。すなわち、神と人はかたちと姿において似ています：

１．エゼキエル第 1 章 26 節で、御座の上の方には人の外観があります：

ａ．御座の上に座す方は、神だけでなく人でもあります。彼は、神・人、人・神、神と人のミングリングです――使徒 7:56。

ｂ．神は肉体と成ることを通して人と成りました。彼は人として生活し、死に、復活し、昇天しました。今や彼は御座の上の方として、なおも人です――ヨハネ 6:62．使徒 7:56。

２．主イエスは十字架、復活、昇天を通して、御座にもたらされました―― 2:36．ピリピ 2:5-11：

ａ．神は常に主ですが、今や御座の上にいる人が主です――啓 4:2-3．5:6。

ｂ．主イエスが十字架につけられて葬られた後、神は彼を復活させ、彼をご自身の右に置き、彼を全宇宙の主としました――使徒 2:36。

Ｄ．神の意図は、人の上で働いて、人が御座の上にいることができるようにするという

ことです――詩 8:4-8．啓 3:21：

１．神の思いは人の上にあります。神は人を通してご自身を現し、人を通して王として支配することを願っています――詩 8:4, 6．創 1:26。

２．神の目標は、わたしたちを御座にもたらし、わたしたちを御座の人とすることです――啓 3:21：

ａ．神の王国は、わたしたちが御座の上にいてはじめて、完全に臨むことができます。

ｂ．神の敵は、わたしたちが御座の上にいてはじめて、征服されます。

３．神がわたしたちを御座にもたらすことを願っているのは、サタンが神の御座に反逆しているからです――イザヤ 14:12-14：

ａ．神が宇宙で直面する最大の困難は、彼の御座が反逆の権力によって反対され、攻撃されることです。サタンは神の御座に反逆することで、彼の座を天に高く上げ、こうして神の権威を侵害しようとしました。

ｂ．神は完全に成長した団体の人を得て、この人を通して神の権威が執行されることができ、神の王国が地に臨むことができることを必要とします――啓 11:15. 12:5, 10。

Ⅱ．人を創造した神の定められた御旨は、団体の人を得て、彼を表現し彼を代行することでした――創 1:26：

Ａ．神はご自身のかたちに人を創造して彼を表現させ、人に彼の統治権を与えて彼を代行させ、彼の敵を対処させました―― 26-28 節。

Ｂ．神の定められた御旨を完成するために、神の願いは、人と同じになること、ご自身をキリストの中で人の中へと造り込むことによって、人を彼であるのと同じにすることです――Ｉヨハネ 3:2 後半．エペソ 3:17 前半。

Ｃ．創世記第 1 章で神が人を創造したことは、神の新創造における新しい人の絵です。これが意味するのは、旧創造が新創造の型、予表であるということです――エペソ 2:15．4:24：

１．召会、キリストのからだは、一人の新しい人であり、神の永遠の定められた御旨を完成します―― 1:9, 11. 3:9. ローマ 8:28-29．Ⅱテモテ 1:9. エペソ 2:15-16. 4:22-24。

２．最終的に、一人の新しい人としての召会は、神の意図における団体の人です。この新しい人は、神を表現し、神の敵を対処するという二重の定められた御旨を完成します―― 13, 24 節．創 1:26-28。

Ⅲ．主の回復の目標は、完全に成長した団体の人を生み出すことです――エペソ 2:15. 4:22-24．コロサイ 3:10-11：

Ａ．主が彼の回復の中で行なってきたこと、また今行なっていることは、ご自身を命またパースンとする団体の新しい人を生み出して、彼を表現し代行することです――エペソ 3:17 前半．コロサイ 3:4, 10-11。

Ｂ．一人の新しい人は神の王国をもたらし、王なるキリストを地に戻します――啓 11:15。

Ｃ．「究極的に、聖書は一人の新しい人としての召会について語ります。……新しい人の中には、パースンのほか何もありません。この段階はとても高いのでさらに高くなることはできず、とても厳密であるのでさらに厳密になることはできず、とても

親密であるのでさらに親密になることはできません。すべては一人の新しい人です。この一人の新しい人にはただ一人のパースンだけがあり、このパースンは主イエスです」（一つからだ、一つ霊、一人の新しい人, 第 7 章）。

D．今や神が新しい人を成就するという彼の定められた御旨を実現する時です。この新しい人は地に完全に出現します——エペソ 4:24：

1．世界情勢が起こされてきたのは、団体の新しい人というこの目標のためです。

2．今日、すべての地方の聖徒たちが彼らの各種の環境の中で、この団体の人となることが可能です—— 24 節。

3．一人の新しい人が完全に成長して成就されるとき、それは主の来臨の時であり、この団体の人は彼の花嫁となります——啓 19:7。

Ⅳ．わたしたちは完全に成長した団体の人に到達して神の定められた御旨を完成するために、命の経験の第四段階へと入らなければなりません——エペソ 4:13：

A．これはわたしたちの霊的な命の最後で最高の段階、すなわち、キリストがわたしたちの中で完全に成長する段階です。

B．イスラエルの子たちがエジプトから脱出し、荒野を経て、カナンへと入る予表によれば、わたしたちの霊的な命の初めの三つの段階は、ヨルダン川を渡る前に起こります—— I コリント 10:6, 11。

C．わたしたちの霊的な命の第四段階は、ヨルダン川を渡ってカナンの地へと入った後に起こります。わたしたちはカナンの地で、霊的戦いに従事することを学びます。

D．第三段階の終わりに、わたしたちは神のかたちをもって神を表現し、第四段階で、わたしたちは神の権威をもって神を代行します——創 1:26。

E．第四段階における命の経験は、以下のことを含みます。すなわち、からだを認識すること、昇天を認識すること、キリストと共に王として支配すること、霊的戦いに従事すること、キリストの身の丈に満ちることです。

務めからの抜粋：

四つの生き物

人の外観を帯びている

聖書ははっきりと、人は神がご自身を現す手段であることを啓示しています。神は人なしに現されることはできません。人が神のかたちに創造されたのは、神の表現となるためです。神は宇宙の中心ですが、表現を必要とされ、この表現は人を通してです。人がなければ、神に表現はありません。無数の御使いは、神の表現となることはできません。神は、彼を表現する団体の人を必要とされます。あなたは、自分が人であるという事実を決して軽んじるべきではありません。

聖書には、実はただ四人の人がいるだけです。それは第一の人、第二の人、新しい人、男の子です。わたしたちは第一の人でした。キリストは第二の人と呼ばれています（ I コリント 15:47）。わたしたちは再生によって新しい人となりました。今や、わたしたちは男の子になるという期待があります。この務めは新しい人のためだけでなく、男の子のためでもあります。

わたしたちはキリストの表現としての召会について語りますが、キリストの表現とは何であるかを認識していないかもしれません。召会が表現しなければならないキリストは、

御座の上のその人です。わたしたちはキリストを表現しようとするなら、キリストは今日、なおも人であることを認識する必要があります。わたしたちはただ神を表現するだけではありません。わたしたちは人の中の神を表現します。召会はキリストの表現です。これは、召会がただ神の表現であるだけでなく、人の表現でもあることを意味します。

エゼキエル書第 1 章 26 節は、主は今日、御座の上の人であることを見せています。神は人を必要とし、そして最終的に人と成られました。わたしたちは生き物として、人としての彼を表現します。彼は御座の上の人であり、わたしたちも人の外観を帯びています。神のご計画を成就するのは人であり、神を表現するのは人であり、敵を打ち破るのは人であり、神の王国を人類の中へともたらすのは人です。神は人を必要としておられます。

エゼキエル書第 1 章のビジョンは、四つの生き物が人の外観を帯びていることに関して三つの重要な事柄を啓示しています。第一に、神の栄光が彼らの上に現されています。神の栄光の現れは、四つの生き物が人の外観を持っていることにかかっています。彼らがいる所に、神の栄光があります。神の栄光は彼らから分離しておらず、彼らがいないなら、神の栄光は現されることができません。第二に、これらの生き物は神の行動の手段です。神の行動は彼らにかかっています。彼らが行動するとき、神が行動されます。なぜなら、神の行動は彼らと共にあるからです。第三に、人の外観を帯びている四つの生き物は、神の行政の手段です。エゼキエル書第 1 章は、神が御座に座しておられることを啓示しています。神の御座は、地上のすべてのもの、この書に記録されているすべてのものを支配します。ですから、この御座は神の行政の中心です。しかしながら、神の行政の中心は、四つの生き物が人の外観を持っていることにかかっています。このゆえに、神の御座の行政があるのです。この三つの事を一緒にするなら、人が神の現れの手段であること、人が神の行動の手段であること、人が神の行政の手段であることを見ます。神の目に、また神の御手の中で、人にはそのような重要な地位があります。

わたしたちはみな、神の願いは人を得ることであることを認識する必要があります。神は風、雲、火、こはく金を用いてわたしたちを生かされます。それは、人を彼の現れ、行動、行政の手段として得るためです。人はそのように神にとって重要であるので、わたしたちが人であって、人の外観を帯びていることは極めて重要です。わたしたちは神の現れのために、神の行動のために、神の行政のために、人である必要があります。

エゼキエル書第 1 章 26 節の御座に座している方が人の外観を持っておられるとは、何と尊いことでしょう！　この節は、全能の神についてではなく、「人のような外観の」方について語っています。ここの御座に座している方が人の外観を持っておられるという事実には、少なくとも二重の意義があります。第一に、エゼキエル書第 1 章 26 節と、神がご自身のかたちに、彼の姿にしたがって人を創造したと言う創世記第 1 章 26 節との間には、確かに関連があります。第二に、神ご自身が肉体と成って人と成られました。彼は人の性質を持って、人として生活し、死に、復活し、昇天され、今や天でなおも人の子です（ヨハネ 6:62．使徒 7:56）。

聖書には、神と人との関係に関して奥義的な思想があります。神の願いは、人であるのと同じになることであり、また人を神であるのと同じにすることです。これが意味するのは、神の意図が、ご自身を人とミングリングし、それによってご自身を人のようにし、人を神のようにするということです。主イエスは神・人です。彼は神全体であり、完全な人

です。わたしたちはまた、彼は人・神であると言ってもよいでしょう。わたしたちが今日、礼拝している方は、人・神です。さらに、神の人であるとは、モーセがそうであったように（申 33:1．ヨシュア 14:6．詩第 90 篇のタイトル）、神・人、神とミングリングされている人であることです。神に選ばれ贖われたすべての人が神・人になることは、神にとって喜びです。

地上での神の意図は、人を持つことです。これが彼の願いです。最終的に、彼ご自身が人と成られました。そして今日、御座の上で、彼はなおも人です。人は神のようになりたいかもしれませんが、神は人と成られたいのです。神の意図は、ご自身をわたしたちの中へと造り込んで、わたしたちを彼であるのと同じにし、それにもまして、ご自身をわたしたちであるのと同じにすることです。こうして、神の意図は、人を持つことと、ご自身を人の中へと造り込むことです。わたしたちは、主がなおも人として御座の上におられるという事実に、深く印象づけられる必要があります。エゼキエル書で、「人の子」という用語は九十回以上使われています。これは、神が人を持つことをどれほど願っておられるかを示しています。

神を生かし出し、神を表現しようとするなら、わたしたちは人であって、人の外観を持つ必要があります。エゼキエル書第 1 章 5 節は、四つの生き物が人の外観を持っていると言い、26 節は、御座の上の方が人の外観を持っておられると言います。ここの重要な点は、人が神を表現するために神のかたちに創造されたので、人だけが神に似ているということです。人が人の外観を持たなければならないのは、神のかたちを生かし出し、こうして神を表現するためです。神を生かし出し、神を表現したいなら、わたしたちは人であり、人の外観を持たなければなりません。人の外観を持たない者はだれも、神を表現することはできません。御座の上の方と四つの生き物がいずれも、人の姿を持っているのは、地上の四つの生き物が、御座の上の方の表現であることを示します。（エゼキエル書ライフスタディ、メッセージ 5、12）

第四段階——キリストのわたしたちの中での完全な成長

今や、わたしたちは霊的な経験の第四段階を考えます。これはわたしたちの霊的な命の最後で最高の段階、すなわち、キリストのわたしたちの中での完全な成長です。

わたしたちは前の段階、すなわち罪、この世、良心の違犯、肉、自己、天然の構成に関するわたしたちの中の困難がすべて対処され、きよめられることを経過した後、わたしたちの中には神以外に何も残っていません。神は今やわたしたちの中で絶対的な立場を得ておられ、わたしたちの全存在は内側も外側も、完全に聖霊で満たされています。今やわたしたちは霊的な命の最高の段階に入ります。そこにおいてキリストはわたしたちの中で完全に成長し、円熟します。ですから、わたしたちはこの最高の段階を、「キリストのわたしたちの中での完全な成長」と呼びます。

イスラエル人が、エジプトから出発してカナンへと入った記事で示されているような、旧約の予表を見てみましょう。彼らは行程の始まりで紅海を渡ることによって、束縛の地であるエジプトを離れましたが、パロとその軍勢は海の中に葬られました。そこで、この世とその強奪する力ははぎ取られました。後ほど、彼らはアマレク人と戦いました。それは、彼らが肉を対処することの予表です。そしてイスラエル人は荒野で四十年間さまよい

ました。聖書で四十という数は、試みと苦悩を意味します。神は彼らを導いて四十年間、荒野を歩かせました。なぜなら彼は、試みと苦悩によって、彼らの肉の悪を暴露することを願われるからです。神の意図は、肉が徹底的に対処されることです。わたしたちの経験も同じです。バプテスマの後、肉をただ一度、対処するだけでは十分でありません。わたしたちは神の御手の中で、何か月も何年も対処されなければなりません。時には神はわたしたちを荒野に導いて、わたしたちの生計が困難になるだけでなく、わたしたちの霊でさえ乾き、圧迫され、みじめになるようにされます。この唯一の理由は、試みと苦悩を通してわたしたちの肉が対処されるためです。

イスラエル人がさまよいの日を満たしたとき、神は彼らをヨルダン川に導かれ、彼らはギルガルで割礼されました。一方で、彼らは実際的に、カナンの約束された地に入りました。もう一方で、彼らはカナン人の七つの国民に直面していました。そして戦いが必要とされました。それは七つの国民を絶滅させ、神の王国を確立するためです。これが予表しているのは、霊的な荒野におけるわたしたちの試みの日々が満ち、わたしたちの肉がある程度、対処されることを学んだとき、神はわたしたちを霊的なヨルダンに導き、そこで肉が完全にころげ去り（「ギルガル」は「ころがる」を意味します）、切り取られる（コロサイ 2:11）という事実です。それゆえ、わたしたちは実際的に天の領域に到達し、それによってキリストのすべての豊満を受け継ぎます。さらに、この時、わたしたちは天上にいる邪悪な霊どもと接触し、霊的戦いを経験し始めます。

イスラエル人は全行程で二つの水、すなわち紅海とヨルダン川を経過しました。紅海はパロと彼の軍勢を葬るためですが、ヨルダン川はイスラエル人自身を葬るためです。彼らはヨルダン川を経過したとき、十二の石を運び、川底の別の十二の石を取り出しました。この二組の十二の石は、十二部族を代表します。それは「古い」十二部族がヨルダン川で終わらせられ、「新しい」十二部族が川の他の側に渡って約束された地へと入ったことを表徴します。彼らが渡ったこれらの二つの水はどちらもキリストの死を予表しています。紅海の水は、この世の勢力を終わらせるキリストの死の面の予表です。ヨルダン川の水は、わたしたちの古い人を終わらせるキリストの死の面を代表します。イスラエル人は紅海を渡ったとき、アマレク人とだけ戦うことができました。ヨルダン川を経過してはじめて、彼らはカナン人の七つの国民と戦うことができました。これが意味するのは、わたしたちの霊的な命の初めにおいて、バプテスマの後、わたしたちはただ肉との戦いを持つことができるだけであるということです（ガラテヤ 5:17）。わたしたちの霊的な命が最高峰に達してはじめて、わたしたちの肉が完全に葬られ、ころげ去り、わたしたちの内側の困難がすべて解決され、わたしたちは外側で敵を対処し、霊的戦いに従事することができるのです。

このすべての予表によって、わたしたちの霊的な命の初めの三つの段階は、わたしたちがヨルダン川を渡る前に起こっていることがわかります。第四段階は、わたしたちがヨルダン川を渡ってカナンの地へと入った後に起こります。わたしたちのすべての問題は、ヨルダン川の他の側とヨルダン川の中で対処されています。今やわたしたちは川のこちら側に来て神の問題を対処し、神のこの約束された地を強奪しているカナン人の七つの国民（天上にいる霊的な暗やみと悪の権力――エペソ 6:12）と戦い、完全に滅ぼすのです。こうして、霊的戦いは、わたしたちの霊的な命の最後で最高の段階に置かれなければなりません。

さまざまな対処を経て、わたしたち自身の問題が解決されてはじめて、わたしたちは霊的戦いに従事することができるのです。

別の観点から見るなら、神はすべての贖われた者たちに二重の目的を持っておられます。第一は最も重要であり、わたしたちが神ご自身で満たされ、彼の栄光を現すことです。第二は、わたしたちが神のために支配し、彼の敵を対処することです。わたしたちは霊的な命の第三段階の終わりに到達するとき、聖霊、あるいは神ご自身で満たされて、神の第一の最も重要な目的が成就されます。この時、神は、わたしたちが彼のために戦い、彼の敵を対処することを学んで、彼の第二の目的がわたしたちの中で成就されることができることを願われます。これは、わたしたちが霊的な命の第四段階において経験することです。

この第四段階で、わたしたちは五つの経験を扱います。１、からだを認識する、２、昇天を認識する、３、キリストと共に王として支配する、４、霊的戦い、あるいは神の王国をもたらす、５、キリストの身の丈の度量に満ちる。（命の経験（後編）、第四段階）